



ウメソ一通信

平成 29 年 12 月号

今月のトピックス

自動車の盗難・車上荒らしから愛車を守る



警視庁の統計資料によると、自動車の盗難や車上荒らしは近年、増加傾向にあるようです。そんな悲しい被害に合わないために、日頃から気をつけるべきことを、自動車の犯罪被害に詳しい西村有樹さんにお伺いしました。

「自動車の盗難と車上荒らしの被害が集中しているのは、自宅の屋外駐車場や屋外の契約駐車場。屋外が狙われやすいのは間違いありません」(西村さん)とはいえ、わざわざ屋内駐車場を借り直すのも現実的ではありません。まずは、屋外駐車場の自動車の盗難対策を教えてください。

「最近の自動車には、イモビライザーが標準搭載されています。イモビライザーとは電子キーの照合システムによって、専用のキー以外ではエンジンを動かないようにする、自動車盗難防止システムです。まずはイモビライザーがご自身の自動車に装備されているかを調べてみましょう。もし付いていない場合は後付けをすることもできます」(西村さん)さらに、盗難を防止するためには、設置することでハンドルが動かなくなる、市販のハンドルロックを取り付けるのも効果的なそうです。

国産の人気車種は盗難に遭いやすいため、特に防犯意識を高く持つことをおすすめします。

あわせて気をつけるべきなのは、車両内から現金や品物が盗まれてしまう車上荒らしです。

「車上荒らしの対策としては、車内に財布やパソコン、スマートフォンなどを置いたままにしないのが基本。

1~2分自動車から離れるときも、貴重品は肌身離さず持って出ることを心掛けましょう。また、最近は車内だけでなく、バンパー、ドアミラー、ホイールなどのパーツが盗まれるケースが増えているので注意が必要です」(西村さん)

屋外の自宅駐車場なら、人が近づくと点灯する人感センサーを取り付けるのも手。防犯意識が強いことをアピールできれば、不審者も警戒して被害に巻き込まれる可能性が低くなるはずです。

愛車が盗難や車上荒らしにあわないために、さっそく防犯対策をはじめてみてはいかがでしょうか？

以上

※掲載内容の無断転載を禁じます

監修者 西村有樹さん

編集・ライターとして出版業界に携わる。リクルート、小学館、講談社ほか多数の出版社の各媒体にて、主に企業取材、企業人インタビューを手がける。金融ビッグバンを機に金融・保険を自身の専門分野として確立。保険業界の最新の情報を得ながら、1ユーザーとしての視点で、わかりやすい自動車保険記事を執筆。総合情報サイト「All About」では自動車保険ガイドをしている。



株式会社 ウメソ

〒733-0002 広島県広島市西区楠木町3丁目16-4-2

TEL:082-238-2332 FAX:082-230-2442

安全運転のポイント

冬季は降雪地域や寒冷地でなくても、路面が凍結していることがあります。凍結路面は発見しにくいためスリップして初めて気づくということもよくあります。また、積雪をする地域では吹雪などの降雪時以外でも視界が悪化することがあります。そこで今回は、凍結しやすい時と場所や、降雪以外で視界が悪化する場合を紹介するので、走行中にそのような場所や状況にさしかかったときは、十分に用心して安全運転を心がけましょう。



路面が凍結しやすい時と場所

こんな場所が凍結しやすい

降雪地域や寒冷地でなくても、次のような場所は路面が凍結しやすいといわれていますから、スピードを落とす、前車との車間距離を長くするなど慎重な運転を心がけましょう。

- ・橋の上
- ・トンネルの出入口
- ・切り通し（山や丘陵などの間を切り開いて通した道）
- ・山間部などの日陰になっているところ。

深夜から明け方は凍結しやすい

結路面は積雪路面よりもはるかに滑りやすいため、停止距離が長くなるだけでなく、ブレーキやハンドル操作のわずかなミスがスリップを招く危険があります。しかも、凍結路面は見分けにくいために発見も遅れがちになります。

気温の下がる深夜から明け方の時間帯や、雨が降った後などは凍結しやすいので、路面の状態に十分な注意が必要です。

トンネル内でも凍結していることがある

トンネルの中は雨も雪も降らないため、路面が凍結することはないように思えますが、そうではありません。走行車両の落とした雪がトンネル内で凍結していることがあります。積雪地帯や降雪地帯のトンネルを走行するときは、路面の状態に注意を払いましょう。また、長いトンネルの場合は、入口と出口の路面状態が変化していることがあります。入口では凍結していなくても出口は凍結していることがありますから注意しましょう。



降雪時以外で視界が悪化するとき

開けた場所では地吹雪が視界を遮る

道路の周囲に建造物や雑木林などのない開けた場所で雪が積もっているときは、強風が地面に積もった雪を吹き上げる「地吹雪」に注意が必要です。地吹雪は、道路には雪がない場合でも、道路の周囲が積雪していれば発生しますから、雪道ではないからといって安心はできません。特に防雪柵が設置されている場所は、地吹雪地帯であり、一見風がなく穏やかなように見えても、いきなり突風が吹いて地吹雪が舞いあがる場合があります。激しい地吹雪に襲われると、前方がほとんど見えなくなり危険ですから、地吹雪が発生しそうな場所では、あらかじめスピードを落として慎重に走行しましょう。

前車や対向車などが舞い上げる雪煙が視界を遮る

積雪した路面を走行するとき、前車や対向車、片側2車線道路で自車を追い抜く車などが舞い上げた雪煙で前方が見えなくなることがあります。特に相手がトラックなどの大型車の場合は雪煙が発生しやすくなります。先行車とは車間距離を十分にとり、すれ違うときや追い抜かれるときはハンドルをしっかりと握り、雪煙に視界を遮られても決してあわてて急ブレーキをかけたりせず、落ち着いて視界が回復するのを待ちましょう。

※視界が悪いときには、前方をよく見ようと前かがみの姿勢になりがちです。このような姿勢では、とっさの場合にハンドルやブレーキ操作などを適切に行うことができず、操作ミスを誘発する危険がありますから、運転姿勢にも注意しましょう。

タイヤチェーンは冬季の必需品

冬季の走行ではタイヤチェーンは必需品です。雪の少ない地域でも、最近では突然大雪が降ることもあります。また、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤを装着している場合でも、上り坂などではチェーンが必要となることがあります。チェーンの未装着はスリップ事故などにつながるだけでなく、走行不能となって立ち往生した場合には、それが原因で渋滞が発生し大きな混乱を招くおそれもあります。チェーンが車に入っているか、傷などはないか、正しく装着できるかなどをしっかりと確認しておきましょう。

